

事業所名

こどもトレーニングひろば 第一校

支援プログラム（参考様式）

作成日

R7 年

4 月

1 目

法人（事業所）理念		こころとからだを整え、生きる力を育てる					
支援方針		利用児の考えを認め支援する					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	日々の健康状態を観察し、少しの変化にも気づくことができるよう支援します。異変に気づいた場合には適切な対応を行います。 生活のリズムを整える。また、生活習慣を形成することでストレスの軽減に努める。 食事・トイレ・更衣等ADL面の自立に向けた支援をします。					
	運動・感覚	利用児の発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるような遊びを通して支援します。 支援時間が長時間の場合は、身体を動かしながら遊ぶことができるよう公園への外出を行います。利用児の特性に応じて必要な個別のリハビリテーションを実施します。 一人一人の利用児を適切に評価し、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢 の運動・動作 の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。					
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集し認知機能の発達を促すために制作活動や身体遊びを学習プログラムとして取り入れています。 認知の特性を把握し情報を適切に処理できるような環境調整や支援者の関わり方の指導や調整を行います。 形、数、時間など遊びの中で学べる環境を提供します。					
	言語 コミュニケーション	その子に応じた絵カード、ジェスチャーを使用したコミュニケーション支援や歌、絵本、言葉遊び、日常会話にて発語を促す支援、お友達との関わりを通してコミュニケーションの楽しさを学ぶ支援を提供します。					
	人間関係 社会性	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していきます。一人遊びの状態から並行 遊び、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びといったスモールステップでの遊びの育ちを促します。利用児自らが自発的に集団に参加し 手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援します。みんなで植物を育て収穫するなどの役割を持ち継続することの大切さを学ぶ機会を提供します。					
家族支援		利用児に関する情報の提供と定期的な支援調整 ・子どもの発達上の課題についての気づきの促しとその後の支援 ・相談支援専門員との定期的な支援会議や支援計画の調整 ・関係者、関係機関の連携による支援体制の構築				移行支援	特別支援学校などへの訪問を実施し学校の先生との会議を行い情報共有を行います。
地域支援・地域連携		・医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関との連携・教育機関の関係者等との連携・地域支援の体制の構築のための会議への出席・個別のケース検討のための会議への出席・自立支援協議会等への参加				職員の質の向上	事業所内外での研修へ積極的に参加する。 他職種との連携を密に取り、事業所全体の質を向上します。
主な行事等		夏休み等の長期休みは毎日イベント実施 クリスマス会や保護者参加型のイベントを実施 外出支援					